

# 平成28年度 事業報告書

西神南あんしんすこやかセンター

## 1. 《法人ヴィジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

## 2. 《基本方針》

- ①介護保険制度をはじめとする市町村の介護・福祉行政の一翼を担う機関であることを認識し、公正中立な事業運営を行う。また、地域の特性や実情を常に把握し何事に対しても柔軟に対応をしていく。
- ②職員相互で常に情報を共有し、互いの業務の理念・基本的な骨格といったものを理解した上で、連携・協働の体制を整え、地域包括支援センター業務全体をチームとして支えていく。
- ③圏域の居宅介護支援事業所・介護サービス事業所・地域と密に連携をとり、地域包括ケアの充実を図る。

## 3. 《実績》

### ○介護予防ケアプラン数

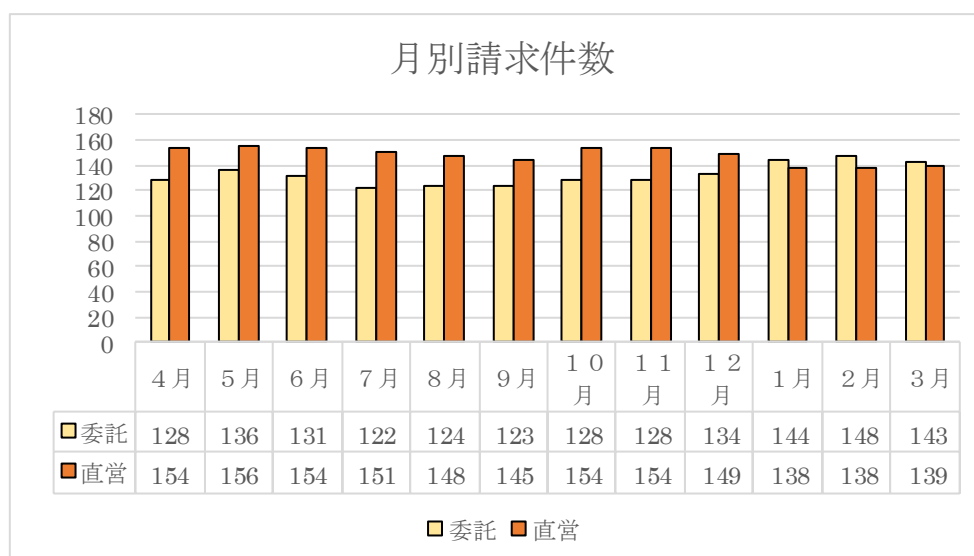
請求合計3,369件 前年比145件減

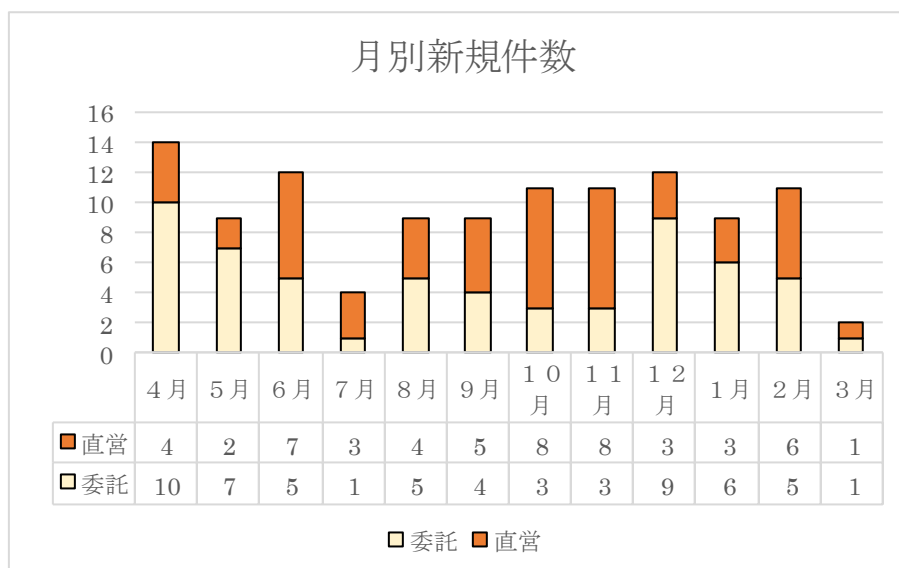
(直営担当数：1,780件 前年比360件減、委託数1,589件 前年比206件増)  
月平均は281件(前年293件)で昨年とほぼ同水準となっている。

新規ケース数は年間113件(前年比10件増)。月平均9.4件。

ケアプランの総数は減少しているが新規ケースの増加はあり、日々の相談業務の中でも、新規相談は増加傾向、認知症に関する相談ケースも多く、平成28年度は相対的に要介護になるケースが増加したと考えられる。

今年度は職員の異動や退職に伴い平成27年度より介護予防ケアプラン作成者数が2名減少しており、直営担当件数は減少している。





#### 4. 《目標に対しての報告》

##### ①相談対応の充実

##### A) 介護者支援の充実

介護リフレッシュ教室を年間6回（2ヶ月に1回）西神南センタービルにて開催。

在宅で介護をされている方に対して情報交換の場の提供だけでなく、時節に応じた行事やレクリエーション等も行い介護者同士の輪を広げていく。

⇒在宅介護をされている方を対象に、年間6回（偶数月）開催。参加者同士が、ご自身の介護体験や悩みを話せる自助グループとしての役割を担っている。窓口で相談に来られた認知症ケースへの参加案内を個別に行ったことや、近隣の居宅介護支援事業所への啓発もあり、新規の参加者も増加している。

（内容）

4月27日：移動介助について（講師：介護ショップひまわり 理学療法士 正木健一氏）

6月25日：認知症ケアについて（講師：デイサービスあさんで管理者 加藤長年氏）

8月8日：がんばらない介護（講師：ペ・ホス氏）

10月28日：腰痛防止について（講師：ケアハウス大慈 理学療法士 山田智大氏）

12月25日：クリスマス会

2月23日：介護体験談（講師：認知症家族の会 世話人 酒井邦夫氏）

##### B) 地域力の向上

地域に対しての啓発の実施

- ・公団住宅ルゼフィールにおいてUR都市機構と共催し年間2回の勉強会を開催。
- ・北町ハピラス西神南において、自治会と協力し介護予防教室を行うとともに、若年層へも健康講座を行い、あんしんすこやかセンターの啓発、介護に関する知識や認知症支援に関する啓発を行う。
- ・圏域内の喫茶等、既存の集まりに対し、センターより最近の消費者被害の動向等のタイムリーなニュースを提供するようにし、高齢者が安全に生活できるよう啓発する。

⇒UR住宅集会所での勉強会の開催は行わなかったが、同会場にて、住民主体の体操教室の立ち上げを行った。「すまいる元気体操」として、体操の講師を招き月1回の体操教室を開催している。また、同様の体操教室を、北町ハピラス西神南でも自治会と協力し開催。そちらも自治会主体で月1回の開催を継続することができた。

その他、圏域内の喫茶や給食会等に可能な限り参加を行い、必要時、消費者被害や介護予防に関する啓発を行った。

(参加行事) 西神井吹台住宅集会所：ふれあい喫茶 やさしい体操 すこやか体操  
西神南住宅集会所：バリスタはなみずき リハビリ体操  
井吹東地域福祉センター：ふれあい喫茶 福祉講座  
井吹西地域福祉センター：給食会  
北町地域福祉センター：北町カフェ  
いぶきまちかど施設：ほんわか倶楽部  
櫛谷地域福祉センター：おもと会  
ルゼフィール井吹台集会所：バリスタいいばしょ すまいる元気体操  
等々

### C) 地域の関係者との連携

#### ◆圏域の事業所やケアマネジャーとの連携

・2ヶ月に1度、ニュータウン地区にある他の2つの地域包括支援センターと共催にてケアマネジャー連絡会を開催。他サービスの事業所とも連絡会を開催し情報交換を行う。  
⇒ニュータウン地区にある他の2つの地域包括支援センター（西神中央・平野西神）と一緒に、西神地区ケアマネジャー情報交換会を開催。

6月には、圏域内市営住宅エリアを対象とした地域ネットワーク会議を開催。ケアマネジャーや介護保険サービス事業所、民生委員、自治会、病院、警察、見守り協力事業者等、合計94名が参加。内容は、民生委員、自治会、ケアマネジャー、医院、警察から日々の地域での見守り活動についての報告をしていただき、参加者の方々が今後の地域での見守り活動を考えていくきっかけとすることができた。

また、地域ケア会議に関しては、地域のケアマネジャーから相談された認知症を抱えた個別のケースに関して、地域ケア個別会議を開催。3つの民生委員児童委員協議会エリアごとに1回ずつの開催を行い、「認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続ける」を目標に事例を検討、その結果、家族や参加された地域住民が認知症について理解し、不安の解消につながるとともに、地域でのサポート方法等も共有することができた。

#### ◆医療機関及び行政との連携

・圏域内の医療機関の情報をまとめ、情報をケアマネジャーに対して発信していく。  
・区の医療連携ワーキングに参加し、地域の方々がスムーズに入退院ができるよう、区内の有床医療機関との連携を強化していく。  
・定期的に地域ケア会議を開催し、各機関との情報の共有に努めていく。  
⇒6月に開催した地域ネットワーク会議には、圏域内のクリニック、歯科医、薬局などの医療関係者の参加も多くあり、地域での見守りや支援の在り方についての情報共有を行った。また、個別事例を用いた地域ケア会議は、ケアマネジャーからの相談があれば適時開催し、各機関の連携の強化に努めた（平成28年度開催回数10回）。

### D) 相談窓口の周知徹底

#### ◆地域住民への周知

・地域行事に積極的に参加し、センターの知名度を上げる。  
・地域の情報誌等の媒体を活用し、行事の実施を通じてセンターの知名度を上げる。  
⇒圏域内で行われている給食会や喫茶等には可能な限り参加し、その場をお借りして介護予防や介護保険制度についての説明を行い、相談窓口としてのアピールを行った。  
また、圏域内のふれあいのまちづくり協議会の会議や、医療生協勉強会等に参加させていただき、地域の現状やセンターの役割についての説明を行わせていただいた。

#### ◆職員の技術向上

- ・研修には適宜参加し、地域包括支援センターの職員としての資質の向上に努める。
  - ・2ヶ月に1度、併設居宅介護支援事業所と合同で事業所内勉強会を実施する。
- ⇒神戸市の必須研修以外にも、外部研修に出来るだけ参加する機会を設け、会議にて他の職員への復講研修を行った。

(参加研修) 認知症早期介入実務者研修及び若年性認知症研修  
 リハビリテーションにおける地域連携  
 生活支援・介護予防サポーターフォローアップ研修  
 西区認知症医療を考える会  
 地域サポート型施設普及推進事業専門相談会  
 介護予防サロン推進事業進捗報告会  
 地域課題化 地域診断 地域ケア会議  
 高齢者虐待対応研修  
 介護予防日常生活総合支援事業の展開における地域包括支援センターの役割  
 西区地域医療介護多職種連携

等々

## E) 認知症事業の啓発

### ◆認知症サポーターの養成

- ・地域包括支援センター圏域内で認知症サポーター養成講座を適時開催する。
- ・井吹東小学校へ働きかけを行い、小学生を対象とした認知症支援の講座を開催できるよう、関係性の構築を図る。

⇒認知症サポーター養成講座は4回実施。

(実施場所、参加人数) 井吹西ふれあいのまちづくり協議会 (22名)  
 井吹東児童館 (63名)  
 井吹の丘小学校児童館 (134名)  
 井吹東小学校福祉委員会 (23名)

### ◆認知症支援の充実

- ・地域において認知症講座を開催し、寸劇等により分かりやすく認知症についての理解を地域に深めていく。
- ・圏域内の医療機関(17医療機関)に対し、認知症に関するリーフレットを配布・説明し、認知症に対する連携の強化を図る。

⇒圏域内の集会所等にて、認知症について寸劇や講話を行い、家族や地域で支えていくための理解や介護保険についての説明、センターの認知度アップの為の啓発を行った。

(実施場所、参加人数) 井吹台住宅集会所 (58名)  
 いぶきの丘小学校 (134名)  
 井吹東児童館 (63名)  
 北町地域福祉センター (29名)  
 井吹東小学校 (23名)

## ②介護予防の充実

### A) 介護予防ケアマネジメントの充実

#### ◆サービス事業所との連携

- ・利用者にとって有用なケアプランが立案できるよう、介護保険サービス事業所との連絡会を開催し、サービス事業所との「顔の見える関係」を構築する。

⇒圏域内市営住宅エリアを対象とした地域ネットワーク会議を開催。ケアマネジャーや介護保険サービス事業所、民生委員、自治会、病院、警察、見守り協力事業者等、合計94名

が参加。内容は、民生委員、自治会、ケアマネジャー、医院、警察から日々の地域での見守り活動についての報告をしていただき、参加者の方々が今後の地域での見守り活動を考えていくきっかけとすることが出来た。

それを踏まえ、圏域内民生委員児童委員協議会エリアごとの、地域ケア個別会議を行い、実際の事例について、地域と事業者、家族がよい連携が取れるように支援を行った。

#### ◆ケアマネジメントスキルの向上

- ・行政主催の研修に参加は勿論のこと、各事業所にて行われている勉強会には可能な限り参加し、介護予防ケアプランの質を高める。
- ・直営担当の給付管理数、月180件を目標とし安定した収入を確保する。

⇒神戸市の主催する「あんしんすこやかセンター職員研修」に参加し、適切な予防プランのマネジメントを行えるように努めた。

### B) 特定高齢者事業の充実

#### ◆圏域の特定高齢者の把握

- ・生活機能評価事業において、特定高齢者候補として該当された方に対して個別に電話・訪問を行い、生活機能評価のフィードバックを確実に行う。
- ・介護認定において非該当となられた方に対して、電話・訪問によりその方の現状を把握し、生活のフォローを行う。

⇒神戸市の実施する「元氣いきいきチェックリスト」を用いて、特定高齢者として該当された方に関して電話にて対応。

また、神戸市主催の介護予防教室に出向き、参加者の方に対し地域行事への参加や地域での活躍の場の提供のバックアップを行った。

### ③地域見守りの強化

#### A) 訪問活動の継続

- ・あんしんすこやかルーム対象エリアの全戸訪問を行い、居住されている方の実態把握をすることにより、必要な方には迅速に介護保険サービスの提供を行う。
- ・圏域の独居高齢者・老老世帯の高齢者に対して、民生委員や地域の団体と情報を共有し、適宜訪問をすることにより生活実態の把握に努める。

⇒今年度も、あんしんすこやかルームエリアの全戸訪問を昨年度に引き続き順次実施。65歳以上の独居、75歳以上の老老世帯を中心に約300戸の訪問し、見守りリストの更新を行った。ルームエリアにおいて、民生委員毎に小地域支え合い連絡会を計5回開催した。

#### B) 地域団体との連携

- ・小地域見守り連絡会を年に一回年度末に開催し、民生委員やL S A等の関係者と地域に居住されている方の課題を探り解決していく。
- ・ふれあいのまちづくり協議会や地域の団体が主催している行事に積極的に参加をすることにより、各団体との顔の見える関係を構築していく。

⇒市営住宅エリアでの地域ネットワーク会議を開催し、その後、民生委員毎に小地域支え合い連絡会を計5回開催。民生委員の担当するケースに対し1件ずつ情報交換を行った。またそれらを元に、西神井吹台住宅、西神南住宅の高齢化率や独居率等のデータを作成し、地域の課題分析を行った。

#### C) コミュニティ作りの充実

- ・地域でコミュニティサポート事業を開催し、住民同士の交流の場を作る。
- ・コミュニティ事業に協力をしていただける方を募り、ボランティアとして活用する。
- ・地域で行われている行事に参加し、地域のコミュニティ作りのサポートをしていく。

⇒あんしんすこやかルームエリアにおいて、年度内にうたごえ喫茶10回、クラシックいぶき2回、リハビリ体操12回のコミュニティ事業を昨年度と同様に開催。L S Aと共催で

福祉講座を2回、また新たに甘味処「あまちゃん」として新たな喫茶行事をあんしんすこやかルームがバックアップを行い、ボランティアグループ主催で2回開催した。

センター事業としては、昨年度より引き続き、チェアエクササイズ（健康体操）を各3回すまいる元気体操を11回開催。また今年度は、当センターが介護予防サロン推進事業モデル地区となっており、井吹西地域福祉センターにて、老人会主催の体操教室「きらく倶楽部」の立ち上げバックアップを行った。

## 5. 《会議》

会議名	
開催	あんすこ・居宅内部会議(事業所内)
	あんすこ単独会議(事業所内)
参加	西神地区ケアマネジャー連絡会
	支え合い推進員連絡会
	西区あんしんすこやかセンター連絡会
	神戸包括ブロック会議
	西区SCS連絡会
	西区医療連携認知症ワーキング会議
	西区地域ケア会議ワーキング
職種別連絡会(主任ケアマネジャー・保健師・社会福祉士)	
各民児協定例会(井吹東・井吹西・櫛谷)	
西区協議体	

## 6. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→センター長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

平成27年度				平成28年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	0件	0件	0件		0件	0件	0件

## 7. 《総括》

ニュータウンの開発による新たなマンションや戸建ての建設、若年層の転入に伴い圏域内の人口は増加傾向。ニュータウン開発25年以上が経過し、団塊世代が多い地域はこの3年で高齢化率が5%上昇と急速な高齢化が進んでいる。独居高齢者や老老世帯だけではなく、複合家族内での認知症を抱えたケースに関する相談が増加傾向にある。相談ケースも重度化し、要介護になるケースも多いため、圏域内の要支援ケースは減少傾向にあった(請求合計3,369件 前年比145件減)。

また、平成28年度は職員の異動や退職に伴いプラン作成者数が2名減少のため、直営ケースが減少している(直営担当数:1,780件 前年比360件減 委託数1,589件 前年比206件増)。これに関しては、平成29年度8月より見守り推進員1名の介護支援専門員資格取得と、6月よりプランナー勤務日数増加により、担当件数の増加を行い直営件数の回復を図る。

また、高齢化の進行に伴い、平成28年度は地域での高齢者虐待に関する相談が非常に多く、年間を通して対応に苦慮した1年であった。

(高齢者虐待相談件数294件(前年度68件) 実人数15件(前年度8件) 内措置1件)

地域ケア会議に関しては、前年度より引き続き実際の個別事例を用いて行い、家族や住民と介護保険事業者の間での情報共有を行うことができ、地域で介護を行っていくための安心感が増したとともに、参加されたケアマネジャーの資質の向上も図ることができた。

更に今年度は、圏域内でも特に高齢化率の高い市営住宅エリアにおいて、ネットワーク会議を開催し、介護事業所だけでなく医療、行政、住民等多くの参加者と共に地域の現状を知り、今後の見守

り支援の在り方についての検討を行うことができた。

それにより、地域の中でのボランティアの重要性が浮き彫りとなり、新たなボランティアの獲得と育成のため、ボランティア講座を開催。神戸市看護大学、神戸市社会福祉協議会より講師をお招きし、ボランティアの健康に対する効能や、実際に始める方法等をご講義いただいた。こういった活動から、新たに地域で活躍する人材の発掘や、高齢者を始めとする住民の集い場の立ち上げなどが少しずつ進んでおり、平成28年度も体操や喫茶等の新たなコミュニティの立ち上げのバックアップを行う事ができた。

平成29年度より開始される総合事業に向け、地域や事業者、医療機関との連携を密にし、介護が必要になっても、介護をする事になっても安心して暮らせるまちづくりを地域の方々と共に行っていきたい。